

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第5回 加東市環境市民会議
開催日時	令和2年8月25日(火) 午後7時から午後9時まで
開催場所	加東市役所2階 201会議室
議長の名 竹村厚司 出席委員の名 竹村厚司 芦谷恒憲 長谷川豊 三木達明 藤原大輔 井上益子 森美佳 植田竹吉 衣笠比佐志 藤本真佐己 井上綾乃 小薮準也 余部衛 藤井悦雄 丸山正人 丸山健次 出井和典 藤井哲夫 欠席委員の名 戸田恵造 笠井郁男 中嶋研二 片山剛志 柳隆之	
説明のため出席した者の職氏名 (株) 総合環境計画 藤田茂伸 寺田みなみ	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 市民協働部生活環境課 課長 梶本俊也 副課長 藤原義守 同課資源循環係 係長 丸山耕市 同課環境政策係 主事 竹内大樹	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開会 2 議事 ・ワークショップ「市民・事業者の環境行動方針について」 3 閉会 ○議事について 「廃棄物分野」「地球環境分野」「自然環境分野」「生活環境分野」「協働の推進・環境学習分野」の5分野において、分野ごとに分かれ、資料「第5回環境市民会議ワークショップについて」「市民、事業者の環境行動方針案」「ワークシート」に基づき、市民・事業者が行う重点取組についてのワークショップを行った。 議事概要は以下の通り。 【廃棄物分野】 <u>不法投棄に対する防犯カメラの設置推進について</u> ・ある程度抑止効果はあると思われるが効果は一時的であり、不法投棄に対する根本的な意識改革が必要である。	

外国の方を対象としたごみ削減のための説明会について

- ・地域差が大きく、今は外国の方が少ない地域でも今後増加する可能性があるため、地域だけでなく、市全体で考える必要がある。説明をうまく伝えるには、地元住民だけでは難しいと思う。
- ・外国の方は、事業所単位で多くいるので、事業所でそういった説明会をやっていくとか。会社の方から資料を配布することは可能だと思われるが、仕事の時間にごみの出し方を説明するのは、方法などの課題がある。

個人の意識を高める取組（ごみの分別説明会）

- ・ごみの分別説明会は、実際にごみを出している人でなく、同居するお年寄りが来ていることもある。
- ・来る人も固定化されてくるため、説明会の時間などを工夫する必要がある。

当番制で次の回収品目をステーションに貼り出す

- ・各家庭に配布しているごみカレンダーは、家にはあるがステーションにはない。拡大コピーしてもらって、ユニバーサルデザインで今日のごみはこれと、プレートなどがかかっていれば、持ってきた人がそこで分けてくれるのではないかな。
- ・多言語対応なども含め、市に協力してもらって作れると良い。

転入時のごみの出し方などの説明

- ・転入されてすぐに説明できるといい。住み始めるのに必ず通る窓口のようなところがあれば。
- ・住民登録の時に、合わせてお知らせするといい。

食品ロスの低減

- ・社会福祉協議会でもらった冊子に、フードドライブをやっていますと書いてあったのを見たことがある。
- ・フードドライブを地区でするのは賞味期限や商品の制限などの点で難しいのでは。検疫の面でも課題がある。
- ・むしろ食品でなく石鹸やハンドタオル、バスタオルなどは気軽に施設へ無償提供できるような仕組みがあるといい。今はまだ一部の人が個人的にフリーマーケットの売り上げをどこかに寄付するといった形になっている。
- ・ドギーバックは日本ではまだ遅れているようだ。レストランで残ったものを持って帰るのも、自分が後で食べるならかっこ悪いが、家のペットの犬にやるんだと、そういう発想からドギーバックが出てきた。日本では、食中毒などの面からも嫌がられることがある。せっかく高価なものを食べているのに残ってもったいないから、持って帰りたいときに制限がある。これは消費者だけでなくお店の意識も高めていく中で、勉強していく必要がある。コロナの関係で売り上げが落ちているお店も多いが、こういうことも新しい時代として、この機会に考えていければ。

集団回収でのリサイクル推進、通年利用できる資源回収 BOX を地域で設置する、リサイクル品の回収拠点を増やす

- ・通年利用できる資源回収 BOX に関しては、責任の所在がない。業者がやっているのは業者の責任となるので、変なものを捨てられていたとしても、業者が処理をする。でもそれを地区でやるとなると、見えないところに防犯カメラをつけないといけなくなったり、どんなものを捨てられるかと後で確認したりしないといけない。このレベルのものを、地域でやるのは難しいのでは。

集団回収でのリサイクル推進

- ・日を決めての集団回収は比較的回数は多い。東条地区にはそれに加えて定置で回収して売却している地区もある。
- ・自治会単位で資源ごみ回収をしているところでは、資源ごみの売却代金と市からの奨励金が収入として発生する。それらは自治会費や小学校などでは教育助成金としている。

【地球環境分野】

気候変動による災害への対策（市民・事業者・市間の情報連携や各主体での対策実施、3主体の連携）について

- ・エコサインマップの勉強会や、非常時の持出し袋の重さや中身の確認、地球温暖化の進行を止めるために、市民としてどのようなことをすべきかという勉強会や講座が考えられる。
- ・事業所での災害時の対応や備蓄品をリスト化することで、災害発生時に活用できるのではないかな。
- ・SDGsの勉強会でもCO₂削減について伝えられるのでは。どのような取組でCO₂がどれくらい削減できるかが分かると良い。
- ・エコバッグの推進（高機能エコバッグの開発や市内店舗でのエコバッグ持参ポイント制など）について
- ・エコバッグに持ちやすさや保冷などの機能があると良いが、高性能なものはハードルが高い。
- ・レジ袋が有料になったことで、マイバッグは浸透しているようだ。

うちエコ診断の実施（地区等で）について

- ・うちエコ診断というのを市と兵庫県でやっている。県が診断士を任命し、家がどれだけ環境効率がいいのかを数値化している。現状を知って改善方法も教えてもらえる。地区で集まっての集団指導も受け付けており、無料で診断してもらえるため実施しやすい。
- ・個人で受けるよりも集団で受ける方がハードルは下がる。
- ・うちエコ診断とは何かというセミナーを実施し、説明を受けて希望する人は受診できると良い。

家庭、企業でのCO₂削減の取組（節電、グリーンカーテンなど）について

- ・企業や家庭でのCO₂削減の取り組みとして、グリーンカーテンなどに特化するの難しいことではないのでは。
- ・工場内にグリーンカーテンがある企業もあり、ゴーヤを植えて従業員に持って帰ってもらっているところもある。
- ・今年は特にグリーンカーテンの効果を感じた。同じ南向きの部屋でグリーンカーテンのない部屋とある部屋とではエアコンの効きが全く違った。

COOL CHOICEの推進について

- ・クールチョイスとは環境省で進めている、CO₂削減に資するあらゆる賢い選択をしようというもので、節電、クールビズ、ウォームビズなども入る。最近ではコロナの関係ではやっている置き配がある。車で行き来する回数が1回で済み、CO₂削減に効果がある。
- ・クールチョイスはやっていく方向になっているが、範囲が広すぎる。

電気自動車の使用促進、エコドライブの推進について

- ・車からの CO2 排出量を減少させることは効果が大きいように感じる。
- ・電気自動車の使用促進は、10 年前から言われているが中々進んでいないようだ。
- ・徒歩、自転車、公共交通機関での移動の推進について
- ・田舎の人は、ごみを出すのにも車に乗ることがある。東条は坂道が多いので自転車は結構きつい。
- ・地区内を移動するときは歩くことにするとよいのでは。健康にもいいし。
- ・それは推進するのはいいが強要はできない。廃品回収は、前は PTA の人が回ってくれていたが、コロナウイルスの影響で個人で行ってくださいということになった。そうなるとお年寄りには車に乗れないし、新聞紙もかさばったら重くなり持っていけない。何とか地区で考えてくださいというくらいなので、歩くことを推進するのは難しいのでは。

【自然環境分野】

猟師の後継者育成について

- ・市民や事業者で推進するのは難しいが、必要なことではある。猟師は高齢化が進み、後継者も育たない。イノシシなども増えてきている。
- ・住民の優先度は高いと思う。

市内の木の活用（薪や木炭など）について

- ・加東市の薪ストーブの普及率はかなり高いので、量を使うのが目的ではなく、山への関心を高めるという意味で、身近な資源として意識ができれば、山にもそういう機能があるのだということが見えるのではと思う。
- ・効果はありそうだが、やろうと思うと山の管理の方に話を持って行ってということになり、難しいかもしれない。現在は山の整備をする必要性が無いため、誰もしていない。
- ・薪ストーブを使っている人は、ネットで購入しているはず。薪を自由に持っていけるようにすればみんな利用すると思う。
- ・木の駅という取組が全国的に広まっている。自分の山で切った木を軽トラいっぱい 2,000 円で木の駅が買い取り、資源化してくれる。

木育の実施（木に触れたり遊んだり）について

- ・やしろの森公園では木育の取り組みをしている。公園の森林整備した木を活用して木のおもちゃを作っているが、積み木も売っているような精度の高いものでなくても、切れ端などでも子どもは自由に遊んでくれる。
- ・木育はお母さん方の関心が非常に高い。子育て世代の親御さんが子どもに何とか木に触れさせてやりたいという思いは大きく、社会を動かす大きな力だと思うので、そこへのアプローチが効果的であり、変えていけるのではと思う。
- ・木工教室よりも山の中を歩く気持ちよさを知ってもらうことが重要ではないか。山の土を踏む感触を知ってもらうとか、まずそれを子どもたちに知ってもらうと良い。
- ・個人の山が整備されていないのはわかる。県の公園ですらきれいに整備されているかといえばそうでもない。公共の場の自然をまず改善していくということから始めて、それが民間の方に波及するといいと思う。

地域の農地、山林について子どもや若者に関心をもってもらう（芋掘り体験など）ことについて

- ・今はほとんど木が使われていないので、山なんかなくてもいいとどこかで思うのだろう。そこを何とかしたい。
- ・山をきれいにするのは大変だと思うが、散歩ができるくらいの整備をしたらいいいうことをワークショップ等で地域の人に知ってもらいと良いのでは。
- ・既に取り組まれている方が講師をして、荒れた山を散歩道にするような講座はどうでしょう。なんでそれをするのかというところが分かれば、なるほどと思ってもらえるのでは。子どもたちがそこへ行って木の実を拾ってきたりする場所になることが、地域の自然環境を守ることにつながるというのが分かれば、うちの山もやろうかと思ってもらえるかもしれない。
- ・山を管理する人に、山の価値を知ってもらおうというものができたら良い。地球温暖化のようなグローバルな点から見ても木の資源は役目があるということを知ってもらおう。市民の関心の高い獣害なんかも絡められたら講座やイベントにも参加してもらえと思う。

地域と自然とのつながりを地域内で伝えていくことについて

- ・大人も子ども一緒にお寺などをめぐるのは村の行事としてあった。参加してみると案外知らないことも多かったりする。
- ・各地域でまちづくり協議会があるのなら活用しない手はない。
- ・東条地域のまちづくり協議会で、各村の歴史のようなものを 2 ページくらいに収めて冊子を作っている。配布した冊子を活かすためにそこに紹介されたところを歩こうという計画があった。
- ・お散歩リーダーを養成する講座を行政でしたら良いのでは。地域の魅力を拾い上げる手法や、地域の価値をどうすれば伝えられるか、価値を見出せるかというのを知る機会があれば、一回やってみようと思ってもらえるのではないか。どこかでやってみたことが、思ってもいない効果が出て次へ波及するというような広がり方をするかもしれない。
- ・フロンティアガイドというものの養成講座があり、まちを歩いて冊子を作って、専門家に話を聞いてもらい、ガイドの勉強会をやっている。地区ごと自然や歴史の資料も作っている。いろんなことを教えてもらって資料がたまっていく。新しい発見があればそれをまた資料に書き加える。

楽しみながら学習できる取組について

- ・芋掘りなどをして楽しかったなで終わらせるのではなく、地域の人は何らかの効果を期待して、そのために農地を提供するという方が話も通りやすいのでは。
- ・農家の協力で苗を植えて水をやって、芋ほりの前に、自然観察会やイベントをやったり、ゴミ拾いをしたりして、それから苗を植えたり、水をやったり、一緒に焼き芋を食べたりするとよいのでは。メリットとしては、単発ではなく苗の時期と、収穫の時期とその間何回かイベントができる。
- ・自然ということに関していえば、植物の名前を知っていたり、その特徴を説明できたりすると、村の人にも集めているいろいろな話ができると思う。
- ・もちろん名前や生態が分かれば楽しいが、公園で仕事をしていても植物の名前はほとんど知らない。それでも子どもたちに興味をもたせることができる。そもそも名前を憶えていなくても、生態さえわかれば楽しめる。生態は知識がなくてもそこにあるものを見れば良い。植物観察だと名前を知っていなければいけないとか、解説できないといけないと思いがちだが、身近な自然がこういう生き方をしているというのをじっくり見るだけすごく面白い。見ている人がどんどん発展させていくというのが本当

の自然観察で、よく見るだけで充分である。そういう考え方になれるような講座、別に知らなくてもできるという自信が持てるような講座ができれば、誰でも企画できるのではと思う。毎回歩いて見つけたものをちょっとメモしておく、次回それを使うとかでノウハウの蓄積ができる。一連の流れを学べる講座のようなものができれば面白い。

子どもたちが自然に親しむことができる取組について

- ・今は子どもだけで山へは行けず魚釣りもしない。私たちが子ども時代にしていたことは皆禁止になっている。
- ・休耕田を借りてきて、みんなで耕して、豆などを作って食べてみようなどはどうか。自分が農家なら、考えられるが、農家をしていなかったら、場所をどうしようとか、やり方が分からないということがある。
- ・具体的な芋掘りを企画するのではなく、課題意識を掘り起こすところをまずできれば面白いと思う。地域の人が芋掘り体験というのをできるけどやらないといけないとは思っていないという部分があると思う。将来にわたって安心して暮らすためには地域の農地も守るという意識を持っている人を掘り起こす必要がある。そこにあるものをこんな活かし方があるという提案ができれば、芋掘りになったり川遊びになったりする。そういう地域の人たちに、提案する機会があれば。すべてを私たちがやるのは大変だが、地域の人が課題意識をもって自分たちの持っているものに価値があると気づいたらそれぞれで何かが起こっていく広がりができるのでは。芋掘りをするというのではなく、なぜ芋掘りしたらいいのかというのをわかってもらえたら。芋掘りができるというのはとても貴重で、なかなかできないものだという価値観を持ってもらったら、守っていかなければと思うと思う。

【生活環境分野】

農業での野焼きのマナー向上、田畑を貸したい人と借りたい人のマッチングを行う

- ・野焼きをしている人には農地を借りている人もおり、地域とのつながりがない場合がある。農地を借りている人と地域とのトラブルは、休耕田や放棄地が増えてきたのと、足並みがそろっている。
- ・貸すときのマナー、ルール作りが必要。強制力はないが、農地を貸し出すときにマナーは守ってという声掛けをしてもらう。
- ・農会と連携し、土地を貸している人向けのアナウンスが必要。

海外から来られている方に、日本の農業を知っていただく交流の機会として、休耕田の管理などに参加していただく

- ・海外の方に農地を貸すのは喜ばれると思うが、海外から種を持ってこられると困るので、ルールを定める必要がある。
- ・営農組合が農業を教えているところは成功している。どこまで外国人を入れているかわからないが、加西市や信州などでやっている。逆に日本の手が今はコロナの影響で足りないし、外国からも入って来られないので、今残っている人、出られない人を対象にやっている。
- ・市民農園を作りマッチング窓口を作ればよいのでは。土地を借りるお金を払うことで教えに来られる方にも謝礼を払えたりできるのでは。うまく回っていくと野焼きの問題や外国の方との交流もうまくいくかも。
- ・土地を貸したいという家もあると思う。どうしたらいいかわからないから休耕田になっているところもあり、周りから苦情が来て放っておくわけにいかないから人を雇って草を刈ってもらっているというのが実態だ。

空家増加への対策

- ・空家は勝手に処分できないし厄介である。危険なところもあるようだが、持ち主がわからないので難しい。

地域の緑化活動、普段の草刈り・ごみ拾い

- ・クリーンキャンペーンも朝がとても早いので来る人が決まっている。
- ・喜んでやってはいませんが、おおむねうまくやってもらっている。難しいのは、うちは大きな地区なので、年2回大掛かりな草刈りをしますが、最近マンションや新しく来た人がたくさんいるので、なぜ田んぼを作っていない者まで参加しなければいけないのかという苦情も増えてきた。その説明としてはその道はみんなが使っているし、田んぼ作っている人だけが使っているのではないと区長や地区の隣保長が説明するが納得はしてもらえない。

【協働の推進・環境学習①】

SDGs 勉強会の開催、人権学習時等に環境学習も実施する、回覧板等で環境啓発

- ・SDGs は分からない人もいると思う。勉強会の中に出てくるのはいいが、初めから難しい言葉を出すのは避けた方がよい。
- ・環境学習を教えるリーダー的な人の教育をまずしなければ。
- ・定期的に開催されているイベントなどに、ちょっとずつ組み込んでいければ。ただ人権学習のときなど人が集まっているときにやるのはいいが、時間が長引くとみんなが嫌になってくる。
- ・人権学習は、講師を呼ぶにしてもビデオを見るにしても大体1時間くらいはかかる。みんなが寄りやすい時間はやはり夜になるので、それを環境学習も込みのプログラムにしては。環境も教えられる講師の方に来てもらうとか。
- ・SDGs は17個あり、人権や農業、ジェンダーなども必ずどこかに関連してくる。今実際にやっていることが、SDGs のここに当てはまる、実際にやっていることが既にあるということを認識してもらって、自分はSDGs をやっているのだというところへ持っていけばよいのでは。
- ・言葉自体を知ってもらうということで浸透させていければ、どんなイベントでも入っていける。
- ・SDGs の学習方法はカードゲームなどのワークショップのようなものも多いと思う。

自然を利用した遊びを地域で子どもに教える、気軽に自然とふれあえる地域づくり

- ・昔は川で魚を釣ったりしていたが、今はそれもできない環境になっている。
- ・小学校が主体になって、老人会を募って小学生に竹馬や水鉄砲の工作を教えたり、田植えや稲刈りをしたりするようなことを小学校区でやっていた。ただ地域で、地区主体でできるだろうか。
- ・小学校区ぐらいでやるのがちょうどいいかもしれない。まちづくり協議会が各校区にある。
- ・子どもを今の自然に放り出したら、危ないところばかりだ。
- ・やしろの森公園などを、うまく使えばよいのでは。

環境学習・クリーンキャンペーン+BBQ、ゲートボールなどを楽しく学習できるイベント

- ・SDGs の話にあったように、こういうのも貢献しているんですよというのが遊びの中から出るかもしれない。

- ・うちの地区は、今年はコロナでなかったが、交流として例えばグランドゴルフなど誰でもできるようなイベントを2時間ほどして、1時間は人権学習して、公民館に帰ってきてバーベキューするというのを年間行事としてやっている。
- ・環境学習を地域行事に入れる。学習会だけとしたら、人を集めるのは大変だと思う。
- ・環境について楽しく学習できるイベントを3世代ですればいいのでは。

【協働の推進・環境学習②】

家庭内でごみや環境のことについて話し合うことについて

- ・簡単なようで難しい気がする。
- ・きっかけがあったら話しやすいかもしれない。きっかけ作りができれば良い。
- ・加東市は県で一番排出量が少ない。各家庭がそういう意識を持って、それを誇りに思うというのはいいことだと思う。
- ・ごみの問題は最終的には一人一人の意識の問題になってくる。家庭での話題になるというのは効果が非常に高いと思う。
- ・これをやったというのは、どうやって吸い上げるのか。アンケートしても、話し合っていないというのが大多数だと思う。

不要品の地域での交換システムについて

- ・いらなくなったものを持って行って、その代わりほしいものを交換してもらうというのが子ども会などである。
- ・地域のふれあいで体操やふれあい喫茶があるときに、うちでは要らないけど、どこかの家庭では必要とするようなものを持って行ってそこで交換したらどうかというのを地域の人と話し合ったが、コロナのおかげでふれあい活動すらなくなって、実行できていない。
- ・要らない人がここに出して、欲しい人が持って行く形でもいい。交換でなくても。フリーマーケットみたいなのもいいかもしれない。市のお祭りなどでそういった場を設けると良い。
- ・環境イベントでなくても、地域のお祭りなどがあるときに、不要品募集のようなブースを置いて、持ってきてもらい、欲しいのがあったら持って帰ってもらうというのから始める。最終的にネットで見られるというのができれば便利だ。
- ・いろんなものというよりも、限定してこれだけを集めるということにしたら、実現性はあるかもしれない。規格もきちんと決めて、使い古したものはダメとか、集めるのはこういうものと絞ってしまうのもいいかもしれない。
- ・単なる物々交換で終わってしまったら環境意識の相乗にはつながらないので、それを伝えるステップがいるかと思う。カードが一枚入っているだけでも全然違うと思う。例えばそこにベトナム語で書いてあるだけでも意識が変わってくると思う。
- ・物を実際にやり取りすることを目的にするのではなくて、ふれあいを生み出す手段としてこういうのを使う方が良いのでは。そこで環境意識の話が起きるような仕組みの方が楽しい。おもちゃの交換会は、子どもたちが知らない子と触れ合ってお母さん同士の会話ができたり、波及効果があったりするかと思う。環境を考える機会として交換会に参加した人に向けて情報を発信するとか、楽しめる仕組みを合わせると物も集まり、関心も高まる。

移動販売や買い物バスの運営について

- ・移動販売はされている地域がある。コープがやっているらしい。
- ・自主運行バスなどは、運転手の確保ができない。

市内学校と地域、企業の協働による環境学習について

- ・企業や社高校などエコ隊というのがある。環境基本計画の担い手は市民で、エコ隊を中心にやるという文言が出てくる。環境パートナーシップというのも出てきて、そこが中心に取り組みをする事になっている。
- ・計画は10年あるので、これがもっと広がればほかの取り組みもできるかもしれない。環境パートナーシップ倶楽部というのは加東市の目玉というくらい活用してもいい取組だと思う。
- ・例えば地区で1年間どんな取り組みをしましたかというような発表をしてもらったら、これは環境問題につながっているとか、これは何の問題につながっているというのを吸い上げられるのでは。地区ごとでやることは全然変わらず、実は環境にこんな取り組みなんだということができれば。バザーなども実は環境につながるというところを示せば。各地でゴミ拾いをしているし。
- ・そのコンテストなどができたら面白い。何かを推進するのは大変だが、今やっている取組を環境につなげることはできそう。

以 上